

平城宮跡歴史公園第一次大極殿院 復原整備事業



概要

特別史跡であり世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つでもある平城宮跡内の**第一次大極殿院**は、奈良時代前半、国家で最も重要な儀式が行われていた空間です。「第一次大極殿院建造物復原整備計画（平成23年）」により、復原整備が進み、令和4年3月に「**大極門（南門）**」が完成しました。**南門**は、**第一次大極殿院**の正面入口となる建造物です。

東楼復原整備工事

令和4年度からは、「**東楼**」の復原整備を行っています。東楼・西楼は第一次大極殿院の南正面にある大極門（南門）を挟んで東西対称に位置する建物です。

「**東楼**」は発掘調査や時代考証の結果、高さ約18.6mの木造2階建の建築物として復原工事が進んでいます。この復原整備事業においても、伝統的な材料・工法を用いる基本方針を踏まえ、南門と同様に木材加工や瓦、金具、左官、塗装等に伝統的な技能を採用しているのが特徴です。

